

公 民 [倫 理] (100 点 50 分)

2013 年 5 月 30 日 (木) 2 限 実施
前期中間考査
千葉県立長生高等学校 第 3 学年 ABCD 組
Edited by K.Kataoka

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙はマークシート式です。
- 3 受験番号はアルファベットを数字に直し、次の例のように 5 桁で記入してマークを忘れないこと。
例 3 年 D 組 1 番 → 30401
- 4 試験中に解答用紙の不足、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 試験終了後、問題冊子は持ち帰って復習をするとともに、答案返却の際に持参すること。

倫 理

(解答番号 [1] ～ [50])

第1問 次の文章を読み下の問い(問1～問6)に答えよ。(配点 18)

アリストテレスが『形而上学』のなかで、「最初に哲学をした人びと」としてミレトスのタレスたちをあげ、タレスを「哲学の創始者」と呼んでいることから、西洋哲学の発祥の地と小アジアのイオニアにある植民都市ミレトスに置き、哲学史を紀元前6世紀初頭のタレスから始めるのか一般的である。

アリストテレスの見解は、最初の哲学的まとまりをもったものとして看過できないであろう。彼は(a)ホメロスや(b)ヘシオドスたちを「神々を語る人びと (theologoi)」とするのに対して、タレスたちを「自然を語る人びと、自然学者たち (physiologoi, physikoi)」として区別した。この最初の自然学者たちは、(c)万物の「始源、原理」、存在者の「元素」を、神々にではなく素材的なものに求めたのである。これは [1] ではなくロゴス(論理)によってそれを捉えようとするものであった。つまり哲学の出発点は、ロゴスによって自然の秩序(コスモス)をどのように整合的に把握するかにあった。

「イオニア学派」または「ミレトス学派」のタレスやアナクシマン드로スやアナクシメネスは、それぞれ始源として「水」「[2]」「空気」を唱えているがとくに「空気」の濃縮と稀薄によって生成消滅を説明し、コスモスの構造を解明しようとするアナクシメネスの立場は、この学派の特色をよく表わしている。しかしそれらの始源は、アリストテレスの表現するような「質料因」とばかり言い切れない、いわゆる物活論的な面をもっていた。

こうした質料因に対して形相因を明確な形で自然の理解に導入したのは、南イタリアで活躍した [3] やその仲間たちであろう。「数の形而上学」といわれる彼らの数と調和の教説は、極めてロゴス的である。そして彼らの自然観とオルフェウス教的な教理とが結びついているところにミレトス学派とはまた別の面を見ることができる。

濃縮と稀薄によって生成消滅を説くイオニアの思想に反対し、しかも「存在」が「非存在」に立ち帰らないというエレアの思想を受け継ぎながら、現象の救済を果たそうとしたのは多元論者たちである。彼らはエレア的な永遠の「存在」を一つの元素に限定させず、さらに運動原因をいわば質料因とは別のものに求めた。(d)エンペドクレスや、無数の種子的元素を認めたアナクサゴラスの「知性(ヌース)」がそれである。

しかしそのような運動原因の独立性を必要としないで、森羅万象を整合的に解明しようとしたのは、レウキッポスやデモクリトスの原子論であった。したがってそれは全く機械論的である。そして彼らのいう無数の原子は、アナクサゴラスの種子的元素の延長であり、また反エレア的に原子の運動を可能にする空虚を認めてはいるものの、原子の一つ一つを不可分な完全充実体とみなす点でエレアの立場を継承している。生成消滅も原子の集合と離散であるとして、魂をも含めた一切を微小物体に帰している原子論は、機械論的であるとともに [4] 的であった。

問1 文章中の空欄 [1] ～ [4] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの

①～④のうちから一つずつ選べ。

- [1]

┌	① ミュトス	② ノモス
	③ ピュシス	④ プシュケー

- [2] ⎧ ① 不動の有 ② 土
 ⎩ ③ 火 ④ 無限なもの
- [3] ⎧ ① ピュタゴラス ② パルメニデス
 ⎩ ③ ヘラクレイトス ④ エレアのゼノン
- [4] ⎧ ① 集合論 ② 唯物論
 ⎩ ③ 観念論 ④ 理想論

問2 下線部(a)に関連して、次の『イリアス』の引用文中の下線部「わが子」「あの子」があらわす人物の名として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[5]

雷の神ゼウスは、オリンポスの峰の頂きに一人でいた。テティスはゼウスの前にひざまずくと、左手で相手の膝をつかみ、右手で神の下あごを握った。そしてクロノスの子で神々の王ゼウスに対して、次のように懇願した。

「ゼウス様、もしも神々の一人であるこのわたくしの言葉や行動で、ご自分が一度でも助けられたという思い出がございましたら、わたくしの願いを叶えて下さいませ。あなた様に、わが子の名誉を回復してやっていただきたいのです」

「あの子は誰よりも短い命しか授からなかった子です。それなのに、アトレウスの倅のアガメムノン王は、あの子の褒賞を横取りして、あの子に恥をかかせたのです。ですから、全知全能のゼウス様、あの子の名誉を回復してやって欲しいのです。アカイア人があの子を大切にすべきことを思い知り、贈り物によって、あの子の名誉を以前にも増して尊重するまでの間、ゼウス様には、どうかトロイ勢の味方をして頂きたいのです」

彼女はこう言ったが、雲を引き連れたゼウスはそれには答えなかった。ゼウスは黙ったまま長い間座っていた。テティスはなおもゼウスの膝にすがりついたまま、その場を動かうとしなかった。そして再度ゼウスに対して哀願した。

- ① パトロクロス ② アキレウス ③ ヘクトル ④ オデュッセウス

問3 下線部(b) に関して、ヘシオドスの作品として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[6]

- ① 『オイディプス王』 ② 『仕事と日々』 ③ 『女の平和』 ④ 『雲』

問4 下線部(c) をあらわすギリシア語として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[7]

- ① ΘΕΩΡΙΑ ② ΑΡΕΤΗ ③ ΑΡΧΗ ④ ΨΥΧΗ

問5 下線部(d)に関して、エンペドクレスの思想に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[8]

- ① 万物のもとのものは土、水、火、空気であるとし、この不生不滅の四つの元素が、「愛」と「憎」によって結合したり分離したりして、世界のいろいろな状態が現出するというように不生不滅の元素によって生成変化の世界を説明した。
- ② 感覚でとらえられる世界は生成変化を続けるが、「変化」とは在るものが無いものになることであり、無いものが在るものになることである。理性で考えれば「無」から「有」が生じたり、「有」が「無」になったりするのは矛盾である。
- ③ 魂は元来、不死すなわち神的な存在であるが、無知ゆえに肉体という墓に埋葬されている。われわれが生と呼んでいる地上の生活は、実は魂の死にほかならず、その死から復活し、再び神的本性を回復することが人生の目的である。
- ④ ロゴスの支配は人事の場面のみならず、ひろく全宇宙に及んでいる。昼と夜とは明暗の形で対立し、人々はその区別にこだわるが、実は昼は夜に、夜は昼になるのであって、その過程を通じて両者は結合して一体をなしているのである。

問6 次のア～ウは本文についての記述である。その正誤の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。[9]

ア アリストテレスによると、イオニア学派は最初に哲学をした人々である。

イ エレア学派は、質料因の濃縮と希薄によって自然の生成消滅を説明した。

ウ デモクリトスはエレア学派を継承しながら、「存在」によって「生成消滅」を整合的に解明しようとした。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

第2問 次の文章を読み、下の問い（問1～問8）に答えよ。（配点 20）

民主政のアテネでは、議会や法廷での弁論に優れていることが、政界での、つまり市民としての成功を意味した。(a) ソフィストたちは時代の要求にこたえ、多額の謝礼と引き換えに富家の子弟に (b) 演説や論争の技術を授けた。講義は作文修辞の法のみならず、法律道徳論、文明論などの実質的思想にも及んだ。彼らが徹底的な形で示した言論の魅力は知的な青年たちをとりこにしたが、やがて保守的市民から過激な危険思想家と目されるようになる。

(c) ソクラテスの受難も、ソフィストと混同されて市民の反感を買ったことが一因であった。

ソクラテスはアテネの中産市民層の出身で、青年時代を民主制の全盛期におくった。その生涯については不明な点が多いが、知的探究心に富み、強靱な体力と意志の持ち主だったと伝えられている。

『ソクラテスの弁明』によれば、ソクラテスの哲学的活動のきっかけとなったのは、彼の友人のひとりがデルフォイの〔 10 〕神殿で、「ソクラテス以上に知恵のあるものはいない」という神託を得たことである。自分は知恵のある者ではないと自覚していたソクラテスは、この真意を探るため、自分より知恵のある者を見つけ出して、神託に反論しようとした。

だが、賢者として評判の高い人々を訪問し、問答をしたあとに、ソクラテスは次のような結論に達した。私たちは、どちらも、〔 11 〕のことがらについては何ひとつ知らない。ところが、相手は知らないのに何かを知っていると思っている。自分は、知らないと思っている。この点において、つまり自分の無知を自覚しているという点で、自分は他の人よりもすぐれている。

この確信にもとづいて、ソクラテスは街頭に出た。そして、広場（アゴラ）での多くの人々との問答を通して、彼らを独断や思いこみから解放し、無知の知を悟らせるようにつとめた。彼は、人々が無知の知を出発点として、みずから普遍的な真理を求め、その探究心がギリシア古来の愛知の精神にまで深められることを願ったのである。

真の知を得るために、ソクラテスは、ソフィストのように一方的に相手を説得しようとはしなかった。まず、相手が当然のごとくに知っていることを語らせてから、一問一答をくり返すなかで、相手の説明にふくまれている矛盾を指摘し、相手がみずから訂正するのを待った。このように、自分が無知であるかのようにふるまい、反対に相手の無知をさらけ出させることを〔 12 〕という。〔 12 〕を出発点としたこの方法を、彼は(d) 問答法と名づけた。

問1 文章中の空欄〔 10 〕～〔 12 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [10] ⎧ ① アテネ ② ゼウス
 ⎨ ③ アポロン ④ ポセイドン

- [11] ⎧ ① 正義 ② 勇気
 ⎨ ③ 真理 ④ 善美

- [12] ⎧ ① レトリケー ② アレテー
 ⎨ ③ アポリア ④ エイロネイア

問2 下線部(a)に関して、プロタゴラスの言葉として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[13]

- ① 言論は偉大な有力者であって、それは非常に小さな、全く目につかない身体を以て、非常に神的な仕事を完成する。
- ② 同じ河に二度入ることは出来ない。この世界は誰が作ったものでもない。決まっただけ燃え、決まっただけ消えながら、常にあったしこれからもあるだろう。
- ③ 何者も有らぬ。有るにしても、何者も知り得ない。たとい知り得るにしても、それを何人も他の人に明らかにすることは出来ない。
- ④ 万物の尺度は人間である。有るものどもについては、有るということの、有らぬものどもについては有らぬということの。

問3 下線部(b)に関して、ソフィストたちが若者たちに教えた技術の呼び名として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[14]

- ① 錬金術 ② 記憶術 ③ 産婆術 ④ 弁論術

問4 下線部(c)に関して、ソクラテスの死に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[15]

- ① ソクラテスは、自分が死刑判決を受けることが、宇宙の理法としての運命に従うことであると考えて、死刑判決を受け入れることを選んだ。
- ② ソクラテスは、自分の哲学が否定されたことを不満に思い、アテネの民主主義を批判する意味で、死刑判決を受け入れることを選んだ。
- ③ ソクラテスは、不正を行うことによって永遠の魂を汚さないために、脱獄ではなく間違った死刑判決を受け入れることを選んだ。
- ④ ソクラテスは、いかに間違った法律であっても法律には従うということが、神のお告げであるから、死刑判決を受け入れることを選んだ。

問5 下線部(d)に関して、ソクラテスの問答法に関する記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[16]

- ① 問答法によって、ポリスの人びとを説得して民主的な社会を作ることができる。
- ② 問答法によって、人びとは真の知に到達することができる。
- ③ 問答法は哲学のための方法であって、哲学そのものではない。
- ④ 問答法によって、人びとは自分の思い込みに気付くことができる。

問6 ソクラテスが「人間がすぐれた者になる」ために必要だと考えた対象として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[17]

- ① 知 ② 美 ③ 富 ④ 愛

問7 ソクラテス考えた「真の知」についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[18]

- ① 知とは本来けっして誤ることのない絶対確実なものであるとすれば、真の知者は神のみであり、われわれ人間は何一つ確実には知らない存在であると考えた。
- ② 生涯をかけて魂の世話を続けることによって、人間は死後の世界で真の知に到達できると考えた。
- ③ 人間の魂は真の知についての記憶を持っているため、それを想起することによって真の知に到達することが出来ると考えた。
- ④ すべての知は相対的なものであるため、絶対的な知は存在せず、弁論によって真偽をあきらかにする以外に方法はないと考えた。

問8 ソクラテスの弟子たちのうちの一派が形成したキュニク（犬儒）派についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[19]

- ① キュニク派のゼノンのパラドックスを唱え、運動の不可能性を証明した。
- ② キュニク派のアヴェロエスは二重真理説を唱えた。
- ③ キュニク派のディオゲネスは犬のような生活を望み樽の中に住んだ。
- ④ キュニク派のカイレポンは神の存在と神託を否定した。

第3問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 16）

普遍的な真理を愛し求めたソクラテスの精神は、弟子のプラトンに受けつがれた。プラトンは政治家として将来を嘱望されていたが、ソクラテスとの出会いと彼の不当な刑死を契機に、ポリスの再建をめざし、[20] を設立して人々に教えを説いた。

プラトンは、真の知を愛するということは、普遍的な真理を求めることであり、それを行うのは人間の理性の活動であると考えた。真の知とは、感覚がとらえる事物とは異なった、永遠に変わらないものについての知である。理性によってのみとらえることのできる完全な性質をもった「ものそのもの」を、プラトンは (a) イデア とよび、(b) 『饗宴』や『国家』のなかで論じている。彼は、とくに人間の勇気などの徳、美などの価値について、イデアの存在を説いた。このイデアを認識することこそ、学問の目的である。さらにプラトンは、さまざまなイデアのなかの最高のイデアを「[21]」とよび、これを現象界における太陽のように、イデア界に君臨する「イデアのイデア」としてとした。

プラトンによれば、世界は現象界と、イデア界とに分けられる（二元論的世界観）。プラトンは、感覚的な現象にとらわれている人間が置かれた立場を、「洞窟の中の囚人」に喩えた。彼らは縛られているので、太陽（「[21]」）を見ることができない。だから、さまざまなものが投げかける影（現象）だけを真に存在するものと考えている。現象界はたえず変化してゆく不完全な仮象の世界であり、この世界で「[21]」を認識するためには、肉体という牢獄にとらわれ、感覚に妨げられて、その本来のはたらきを發揮することができないでいる (c) 人間の魂を解放 しなければならない。

魂をイデアへと向かわせる情念を、(d) エロース という。完全なものへの思慕であるエロースは、人間の徳を向上させる原動力となる。プラトンは、このエロースによって魂をよいものにし、徳をみずからのうちに実現させる必要を説いた。

徳についてのプラトンの考えは、「何よりも魂を大切にせよ」というソクラテスの教えから出発した。人間が徳をもつとは魂をよくはたらかせることであり、その魂のはたらきは、三つに分けることができる。

そして、魂をよいものとし、徳を備えるためには、理性が、身体に属する (e) 気概 と欲望を導かなければならない。そのうえで、理性は正しく善に向かうことで知恵を、気概は理性を助けて欲望を統制することで勇気を、欲望は理性にしたがい過度におちいらないことで節制を、それぞれ実現する。さらにプラトンは、この三つの徳が調和したとき、人間の魂はもっともよい状態となって、[22] を実現することができると説いた。これらの徳は四元徳といわれ、ギリシア人の道徳性の基礎とされた。

問1 文章中の空欄 [20] ～ [22] に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [20] ⎧ ① ストアポイキレ ② リュケイオン
 ⎨ ③ アテネの学堂 ④ アカデメイア

- [21] ⎧ ① 真のイデア ② 善のイデア
 ⎨ ③ 美のイデア ④ 聖のイデア

- [22] ⎧ ① 正義 ② 友愛
 ⎨ ③ 寛容 ④ 思慮

問2 下線部(a)に関して、アイデアについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[23]

- ① 理性によってとらえることのできる感覚的世界に内在した真の实在
- ② 理性によってとらえることのできる感覚的世界を超越した真の实在
- ③ 感性によってとらえることのできる感覚的世界に内在した真の实在
- ④ 感性によってとらえることのできる感覚的世界を超越した真の实在

問3 下線部(b)に関して、次の『饗宴』の中の文の趣旨から、エロースと似ている対象として最も適当なものを下の①～④のうちから一つ選べ。[24]

さて、エロースはポロス（豊かな神）とペニヤ（貧しい女神）の間の息子として次のような境遇に立っています。すなわちまず第一には、彼はいつも貧乏です、そうして多衆が信じているような、きゃしゃとか優美とか言うのとは大違いで、むしろごつごつしていて、汚らわしく、裸足で、また家なしなのです。それは彼が母親の生を受けているので、いつも貧乏と同居しているからです。ところが、他の一方ではまた父親にも似て、いつも美しいものと善いものとを待伏しており、勇敢で剛強で、非凡な狩人であり、常に何かの奸策をめぐらし、しかも術策に窮することないのです。

- ① 哲学者 ② 英雄 ③ ソフィスト ④ 天使

問4 下線部(c)に関して、肉体の牢獄に閉ざされた魂がアイデアを認識できる理由をあらわす概念として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[25]

- ① アウタルケイア ② アナムネーシス ③ ミメーシス ④ ホモウシオス

問5 下線部(d)に関して、エロースと対比されるアガペーについての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[26]

- ① すべてのものに対する平等な愛
- ② 価値あるものを求める愛
- ③ 見返りを求めない無償の与える愛
- ④ 互いの善を願う愛

問6 下線部(e)に関して、『国家』に描かれる、魂の「気概」に該当する市民の階級として、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[27]

- ① 生産者階級 ② 統治者階級 ③ 奴隷階級 ④ 防衛者階級

第4問 次の文章を読み、下の問い（問1～問6）に答えよ。（配点 16）

(a)万学の祖といわれるアリストテレスによれば、実際に存在する事物は、ある普遍的な性質である形相と、それを構成する材料である〔 28 〕からなりたっている。たとえば家という事物は、木材やレンガなどの材料に、家の形や機能があたえられることによって成立する。このとき、木材やレンガは、家となる以前には家となる可能性をもっているだけであるが、家が建てられると、そこには家という形相が実現する。このように、事物が生まれたり変化したりすることは、〔 28 〕にひそむ (b)可能性が現実実現した状態になることとして理解される。

現実のものごとのあり方を尊重するアリストテレスの考え方は、人の生き方についての考察にも反映されている。人間の生きる目的は善であり、最高の善は幸福であること。そして人間にとってもっとも幸福な生活を〔 29 〕的生活であるとした。

アリストテレスも、ソクラテスやプラトンと同じように、幸福の実現にもっとも大きな力をもつのは徳であると考えた。ただし彼は、プラトンとは異なり、徳を思考にかかわる知性的徳と人柄にかかわる (c)性格的徳(習性的徳・倫理的徳)に分けて、理論的な認識と実践のための考察とを区別した。知性的徳には、真理を認識する知恵や人間の行為にかかわる思慮などが含まれ、性格的徳には、勇氣、(d)正義などが含まれる。

他方で、人がよいおこないや正しい行為をするためには、知性的な徳のうちでも実践にかかわる思慮をはたらかせると同時に、行為の原因となる欲求や感情のあり方を制御しなければならない。そのためには、欲求や感情に引きずられておちいりやすい過度や不足という両極端を避け、思慮にしたがって適切な〔 30 〕を選択するような人柄・性格を身につけることが必要である。たとえば勇氣という徳は、単純に臆病と異なるだけではなく、恐れを知らなすぎる無謀とも異なり、両者の〔 30 〕にある。このように、行為をするうえで欲求や感情をコントロールして、〔 30 〕を選択できるような人のあり方が、性格的徳である。この性格的徳を養うためには、欲求や感情を適正に習慣づけて教育することが重要となる。

問1 文章中の空欄〔 28 〕～〔 30 〕に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [28] ⎧ ① エイドス ② ヒュレー
 ⎨ ③ デュナミス ④ エネルゲイア

- [29] ⎧ ① 観 想 ② 政 治
 ⎨ ③ 蓄 財 ④ 享 楽

- [30] ⎧ ① コーラー ② メソテース
 ⎨ ③ フロネーシス ④ ヒュブリス

問2 下線部(a)に関して、次のアリストテレスの論理学、三段論法についての記述の空欄
[ア][イ][ウ]に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから
一つ選べ。[31]

命題論理では、

〈材料(肉、タマネギ、ジャガイモ、ニンジン、カレー粉)があればカレーができる〉

という知識を、たとえば以下のように表す。

(〈肉がある〉 $\wedge$ 〈タマネギがある〉 $\wedge$ 〈ジャガイモがある〉 $\wedge$ 〈ニンジンがある〉 $\wedge$ 〈カレー粉がある〉) $\Rightarrow$ 〈カレーができる〉

上で、〈 〉で囲まれた文がおのこの命題を表し、“ $\wedge$ ”や“ $\Rightarrow$ ”が文の間の論理的関係を表す論理記号である。“ $\sim \wedge \dots$ ”は〈 $\sim$ かつ $\dots$ 〉と読み、“ $\sim \Rightarrow \dots$ ”は〈 $\sim$ ならば $\dots$ 〉と読む。

上の規則が知識ベースに蓄えられていて、さらに〈肉がある〉〈タマネギがある〉〈ジャガイモがある〉〈ニンジンがある〉〈カレー粉がある〉という事実が知識ベースに書かれていれば、〈カレーができる〉ということが推論できる。

これは、三段論法と呼ばれる以下の推論規則

前提1 [ア]

前提2 [イ]

結論 [ウ]

を用いた結論の導出であり、いつでも正しい結論が得られることが論理的に保証されている。

- ① [ア] A である [イ] B である [ウ] A ならば B である
- ② [ア] A である [イ] A ならば B である [ウ] B である
- ③ [ア] B である [イ] A である [ウ] A ならば B である
- ④ [ア] B である [イ] A ならば B である [ウ] A である
- ⑤ [ア] A ならば B である [イ] A である [ウ] B である
- ⑥ [ア] A ならば B である [イ] B である [ウ] A である

問3 下線部(b)に関して、その具体的事例として最も適当なものを、下の①～④のうちから
一つ選べ。[32]

- ① つばみを自己否定して開いた花が、枯れることによって、つばみと花の統合としての果実が結ぶ。
- ② つばみを自己否定することで花が開き、花を自己否定することによって果実が生まれ、果実にとっては次の世代が新たなる弁証法となる。
- ③ 可能態としてのオタマジャクシが現実態としてのカエルとなることを目的として成長する。
- ④ 現実態としてのオタマジャクシが可能態としてのカエルとなることを目的として成長する。

問4 下線部(c)に関して、性格的徳（習性的徳・倫理的徳）の中で、アリストテレスが「ポリスの動物」にとって最も重視していた徳として最も適切なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[33]

- ① 節 制 ② 知 恵 ③ 機 知 ④ 友 愛

問5 下線部(d)に関して、アリストテレスによる正義について説明として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。[34]

- ① 部分的正義のうちの一つは、裁判などにおいて各人の利害・損得を均等に調整する調整的正義である。
② 正義は、全体的正義が部分的正義を正しく導くことによって生じる調和によって成立する。
③ 正義には全体的正義と部分的正義が存在し、ポリスの法を守ることが全体的正義である。
④ 部分的正義のうちの一つは、当事者の能力や業績に応じて名誉や報酬をあたえる配分的正義である。

問6 下線部(d)に関して、次のアリストテレスの著作『政治学』からの引用の中の空欄[A]に入る最も適切な語を、下の①～④のうちから一つ選べ。[35]

ところで、国制（ポリテイアー）という言葉と国務遂行機関・政府（ポリテウマ）という言葉では同じものを意味しており、また政府というのは国家において最高の権限を持つものである。そして最高の権限は一人か少数者か多数者かのいずれの手にゆだねられなければならない。とすると一人または少数者または多数者が[A]のために統治を行うならば、その場合にそのような国制は必然的に正しい国制である。

- ① ポリスの理想 ② 公共の福利 ③ 民主主義の理念 ④ 私利私欲

– 13 –

- [39]

[	① 隠れ	② 知を求め
	③ 自然に従っ	④ 幸福を求め

問2 下線部(a)に関して、ヘレニズム時代の終焉をあらわす出来事として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[40]

- ① カエサルの死 ② アレクサンドロスの死
③ オクタヴィアヌスの死 ④ クレオパトラの死

問3 下線部(b)に関して、次の世界市民主義を表す著作の著者として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。[41]

もし叡智が我々に共通なものならば、我々を理性的動物となすところの理性もまた共通なものである。であるならば、法律もまた共通である。であるならば、我々は同市民である。であるならば、我々はともにある共通の政体に属している。であるならば、宇宙は国家のようなものだ。 『自省録』

- ① エピクテトス ② キケロ ③ マルクス=アウレリウス ④ セネカ

問4 下線部(c)に関して、ストア派の思想から類推できる自然法思想についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[42]

- ① ピュシスではない以上、ノモスとしての法は相対的なものであるという考え方。
② 理性を持った人間である以上、したがわなければならない法があるという考え方。
③ ポリスの市民である以上、ポリスの法にはしたがわなければならないという考え方。
④ 情念を持った人間は、ポリスの法に縛られることによって幸福になるという考え方。

第6問 次の文章を読み、下の問い（問1～問7）に答えよ。（配点 16）

ユダヤ教の聖書はキリスト教によって『旧約聖書』と位置づけられ、そこにもられた思想（ヘブライズム）は、ギリシア思想（ヘレニズム）とともに、西洋思想の源流となった。

ユダヤ人にとって大きな意味をもつできごとは、エジプトからの脱出である。(a)『旧約聖書』によると、[43] の子孫であるイスラエル人は神との契約によって選びだされ、救いを約束された民族であった。彼らは、古くはメソポタミアで遊牧生活を送っていたが、パレスチナ地方に住むようになり、一部はさらにエジプトに移った。しかし、紀元前 13 世紀ごろ、イスラエル人はエジプトで奴隷状態におちいていた。彼らは、神の命を受けたモーセにひきいられてエジプトを脱出し（出エジプト）、「約束の地 [44]」をめざした。その途上、彼らはモーセを介して神と契約をむすんだ。この契約で、神は、彼らが神の意志に従うかぎり、彼らを救うと改めて約束し、神の意志を (b)「モーセの十戒」を中心とした (c)律法（トーラー）の形で示して、これを守るようにイスラエル人に要求し、彼らもそれを守ることを誓った。

エジプトからの脱出は、イスラエル人が神によって奴隷状態から解放され、自由な民になったということを意味している。そして、自由になった彼らは、自分たちの意志で生きることができるようになった。しかし、神のまえでは、どのような生き方でもゆるされるというわけではない。

神は、選んだ民に常にあつい関心をよせている。そのため、神は民族の歴史とかかわる。モーセの死後にパレスチナ地方を征服したイスラエル人は、紀元前 11 世紀末にイスラエル王国を樹立し、前 10 世紀の (d)ダビデ王とソロモン王の時代に栄えた。しかし王国はその後、南北への分裂を経て滅び、イスラエル人は他民族の支配下におかれた。

この亡国の苦難は、神の意志を民に伝える預言者たちによって、すでに南北分裂の時代に告げられていた。(e)預言者たちによれば、当時のイスラエル人の社会は、ヤハウェ以外の神々に走り、まずしい同胞を虐げ、孤児・寡婦・病者といった弱者をいじめるなど、かつて抑圧されていた自分たちがヤハウェによって解放されたことを忘れて、神の民にふさわしくないあり方におちいつている。

パレスチナ地方は前 1 世紀のなかごろにローマの支配下にはいった。ユダヤ人の間には、いまの世の終わりの日が間近にせまっており（終末思想）、(f)メシアがあらわれて彼らを異民族の支配から解放し、新たな神の国が実現されるという期待が高まっていた。

問1 文章中の空欄 [43] ～ [44] に入る最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。

- [43]

① ハ ム	② ヤペテ
③ アブラハム	④ カイン

- [44]

① モリヤ	② シオン
③ カナン	④ ゴルゴタ

問2 下線部(a)に関して、出エジプト記が属する旧約聖書の部分として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[45]

- ① 諸 書 ② 律 法 ③ 福 音 ④ 預言者

問3 下線部(b)に関して、モーセの十戒として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[46]

- ① 主の名をみだりに唱えてはならない ② あなたはいかなる像もつくってはならない
- ③ あなたの父母を敬え ④ あなたはみだりに酒を飲んではならない

問4 下線部(c)に関して、律法に書かれている出来事についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[47]

- ① 神は6日目の最後に人間を造り、7日目に安息した。
- ② アダムはエバに知恵の木の実を与え、二人で食べた。
- ③ イサクは父によって燔祭の生け贄として神に捧げられて亡くなった。
- ④ アベルは12人の子供たちからイスラエルと呼ばれるようになった。

問5 下線部(d)に関して、その時代に造られたものとして、最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[48]

- ① 十戒の石版 ② 金の牛の像 ③ ノアの箱舟 ④ 主の神殿

問6 下線部(e)に関して、旧約聖書の預言者の人名として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。[49]

- ① エゼキエル ② マタイ ③ イザヤ ④ エレミア

問7 下線部(f)に関して、メシアの元々の意味として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。[50]

- ① 聖なる英雄
- ② 天の父なる神
- ③ 神の子キリスト
- ④ 油を注がれた者

これで問題は終わりです。